新　刊

□日本菌学会（編）：**菌学用語集**　86 pp. 1996. メディカルパブリッシャー．¥3,000.

文部省学術用語集とはちがって，学会が独自の活動として作ったものである．語数が英和では約4600件，和英では約5200件とかなり差がある．この理由は，英和では一つの単語に対応する和文をいくつも並べているのに対して，和英ではすべての和文を見出しとしているためである．和文は用語のよみの50音順であるが，読み方は記されていない．これはよみをつけるべきだった．細胞がサイボウかサイホウかでつっ張り合った記憶がある筈だ．よみはデータベース検索にも必要である．もっとも，学術用語集のような訓令式ローマ字は願い下げである．名詞の他に形容詞が非常に多く取り入れられ，ときには動詞も入っている．これはこれで，論文を書いたり読んだりするときの参考になるだろう．菌学用語だから，他の生物分野の用語とは違う場合がある．たとえばautoclave: オートクレーブ／オートクレーブする〔植物学用語集では高圧滅菌器（オートクレーブ）〕，epiphyte: 植物着生生物〔植物学用語集では着生植物〕，incubator: ふ卵器〔植物学用語集では定温器（ふ卵器）〕，sign: 標徴〔動物学用語集では記号〕など，植物学用語集ではascusは「子嚢」であるが，本書で「子のう」である．用語集を作るとき感じたことだが，同じ英文でも分野が違えば用語も使うしニュアンスも異なり，「統一」することに無理がある場合が多い．現在，生物関係だけでも動物，植物，遺伝，農学の文部省学術用語集があり，生物教育用語集も学術用語集と離れて検討されている，今回の菌学用語集で，おそらくかなりの異なる表現が出てきたのではあるまいか．もし文部省学術用語集菌学編を作るとなると，これらの多くは半強制的に先行の用法に「統一」させられるおそれがある．私には教科書だの試験のために，一つの外国語に一つの日本語しか対応させないように「統一」するのは無理があるように思う．学術用語集で，分野が違うからと別々な用法を容認していれば，「統一」の理念と離反してしまう．実際には「統一」せねば不都合がある用語はそんなに多くはないはずだから，自然の成り行きにまかせても大したことはなさそうに思う．

（金井弘夫）